

令和 8 年度 山口県 英語教育改善プラン

目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、校種間連携を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる言語活動の充実を視点を授業改善を行う。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①中学校の学習内容とのつながりを意識したパフォーマンステストや評価を単元計画に位置付け指導する教員が増えた。
- ②目的・場面・状況の設定を行った言語活動がスタンダードになってきている。
- ③授業の中で児童が英語で発話する時間が増加してきている。

未だ改善が必要な点

- ①小中連携した「カリキュラム設定」は十分に進んでいるとは言えない状況である。(R5:54.7%)
- ②単元の目標から逆向き設計で単元計画と言語活動、評価の在り方を考えること。
- ③教員が、自身の英語での発話に未だ戸惑いを感じている。

2. 要因分析

- ①②各種研修会の実施を通して、中学校の学習内容とのつながりを意識したパフォーマンステスト等を位置付けた単元構想や、言語活動中心の授業実践が促進されたと考えられる。
- ③言語活動を軸にした単元づくり、授業づくりが進んできたことが要因と考えられる。

- ①小中連携したカリキュラム設定が言語活動の質的向上に果たす役割について、実践を通じた具体的なイメージの共有や理解が十分ではない。
- ②「主体的な学び」を促す言語活動の具現化に向け、パフォーマンス課題等を含む探究的な要素を持つ学習活動について学ぶ機会が不足している。
- ③教員自らが英語を「使い、学ぶ」姿を児童に体现する重要性について、認識が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②②③各種研修会の実施
教員の授業力向上のため、以下の研修会等を実施する。
＜スキルアップ研修会＞
 - ・小中のつながりを大切にした指導の在り方について
 - ・めざす子どもの姿から逆向き設計する単元計画、パフォーマンステスト、言語活動、評価の在り方について など
 ＜やまぐち英語教育推進連絡会（やまぐち英推連）＞
 - ・英語専科教員による学習指導の充実に向けた情報共有
 ＜センター研修講座＞
 - ・「主体的な学び」を促す言語活動に焦点を当てた講義・演習
- ①各市町における校種間連携の取組の促進と伴走支援
校種間連携を意識した英語教育の重要性を理解し、校種間のつながりを意識した英語教育の充実を図る。
 - ・市町教育委員会指導主事との指導助言の方向性の共通理解
 - ・成果の見られる取組に関する情報共有
 ＜一定の英語力を有する者の新規採用に係る取組＞
 - ・山口県公立学校教員採用候補者選考試験において、小学校受験者を対象とした英語資格等による加点
 - ・大学生や新規卒採用予定者を対象としたWebサイトにおける資料提供「なるやまサイト」
 ＜義務教育課ウェブサイト＞ <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/kyouiku/26847.html>

令和 8 年度 山口県 英語教育改善プラン

目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、校種間連携を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる言語活動の充実を視点に授業改善を行う。○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：43.6%⇒R8：58.0%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①小学校の学習内容とのつながりを意識したパフォーマンステストや評価を取り入れた単元計画を作成できる教員が増えた。
- ②目的・場面・状況の設定を行った言語活動がスタンダードになってきている。
- ③授業の中で生徒が英語で発話する時間が増加している。

未だ改善が必要な点

- ①小中連携した「カリキュラム設定」は十分に進んでいるとは言えない状況である。（R5:54.7%）
- ②求められる英語力を有する生徒の割合は改善が必要である。（R6：53.3%⇒R7：43.6%）
- ③「英語の学習が好きか」という問いへの肯定的回答の割合について課題がある。（R6:55.6%⇒ R7:55.9%）

2. 要因分析

- ①②各種研修会を実施したことで、小学校の学習内容とのつながりを意識したパフォーマンステスト等を位置付けた単元構想や、言語活動中心の授業実践が促進されたと考えられる。
- ③言語活動の時間を確保した授業計画、単元計画が進んできたことが要因と考えられる。

- ①校種間連携によるカリキュラム設定の利点を教員が実感できる研修や、各市町の実践を支える具体的な指導助言が十分ではない。
- ②③指導と評価の一体化をめざした授業改善が途上であり、生徒が英語による自己表現の達成感や成功体験を享受できる学習場面の創出が不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③各種研修会の実施
教員の授業力向上のため、以下の研修会等を実施する。
 ＜スキルアップ研修会＞
 - ・校種間連携を意識した、一貫性のある指導の在り方について
 - ・めざす子どもの姿から逆向き設計する単元計画、言語活動、評価について
 - ・自己表現の喜びを実感させ、「できた」という手応えに繋げる学習課題の検討
 - ・各種調査問題の誤答分析について など
 ＜センター研修講座＞
 - ・「主体的な学び」を促す言語活動に焦点を当てた講義・演習
- ①各市町における校種間連携の取組の促進と伴走支援
校種間連携を意識した英語教育の重要性を理解し、校種間のつながりを意識した英語教育の充実を図る。
 - ・市町教育委員会指導主事との指導助言の方向性の共通理解
 - ・成果の見られる取組に関する情報共有
- ②生成 A I・学習アシスタントアプリの県域共同利用による支援
 ＜アセスメント＞
 - ・外部試験の実施
 - ・県独自学力調査（C B T）の実施及び結果分析
 ＜義務教育課ウェブサイト＞ <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/kyouiku/26847.html>

令和 8 年度 山口県 英語教育改善プラン

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、ICTやALTの効果的な活用を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる言語活動の充実を視点とした授業改善を行う。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7: A2以上 49.1%、B1以上 21.4% ⇒R8: A2以上 57%、B1以上 27%)

目標

☑ 言語活動 ☑ 指導と評価の一体化 ☑ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☑ ALTの参画 ☑ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有する生徒の割合が増加した。
(A2 R6:47.5%⇒R7:49.1%)
(B1 R6:18.9%⇒R7:21.4%)
- ②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が増加した。
(R6:79.6%⇒R7:86.6%)

- ①授業において発話の50%以上を英語で行っている教員の割合が依然として低い。
(R7目標:60%、実績:29.9%)
- ②授業において50%以上の時間を言語活動に充てている教員の割合に課題が見られる。
(参考: R6:44.3%、全国平均56.6%)

2. 要因分析

- ①パフォーマンステストの結果等を踏まえて生徒の英語力を客観的に把握し、その結果を基に授業改善を図る取組が進みつつあることが要因と考えられる。
- ②英語教員対象の英語資格・検定試験の特別受験制度や「教師の英語力・指導力向上のための実践的オンライン研修」の活用等により英語力向上に向けた意識が醸成されたと考えられる。
- ①教師の英語による発話が、言語活動の充実や生徒の英語力向上に大きな影響を与えることへの認識が不十分であることが要因と考えられる。
- ②特に「論理・表現」の授業における生徒の英語による言語活動の割合が低いことが要因の一つであると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①②授業づくりに係る研修会等の実施
＜センター研修講座＞
「論理・表現」の授業を通して、論理的に発信する能力の育成に向けた授業づくりに焦点を当てた講義・演習を実施することにより、授業づくりについての理解促進を図る。
- ＜学校訪問＞
言語活動の充実のための効果的なICTの活用等について協議し、授業改善に向けた指導助言を行う。
- ＜外国語指導助手指導力等向上研修会＞
効果的なチーム・ティーチングの在り方や、外国語指導助手を活用したパフォーマンステストの実施等についての事例発表や指導案検討等を通して、指導力・協働性の向上を図る。
- ①グローバル・リーダー育成事業の実施
(参考URL: <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/180/290762.html>)
- ＜短期留学支援＞
16日間の語学研修・ホームステイを通じて、英語力等の向上を図る。事後報告会では、留学経験者等による講演・発表、留学相談会の実施等を通じて、県内中高生の留学・海外進学に向けた機運醸成を図る。
- ＜スタンフォードe-Yamaguchiプログラム実施＞
海外大学のオンライン講義の受講、英語でのディスカッション・プレゼンテーションを通じて、英語力や積極性等の向上を図る。

山口県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	46.6	50	47.5	53	49.1	57		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		30	17.9	20	18.9	23	21.4	27		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	37.9	50	44.3	60		70		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	44.3	50	43.3	70		85		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	68.2	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	100	56.1	70		80		90		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	82.4	83	79.6	84	86.6	85		85	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	25.9	40	30.4	60	29.9	80		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	51.5	54	53.3	56	43.6	58		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	100	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	99.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	47	50	45.6	53	56.1	53		55	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	99.5	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	99.6	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	99.6	100		100		100		100	